

A3. 屋根工事につきましては、新築時と同様に行うのであれば「土葺工法」により、瓦の直下一面に厚く土を敷き詰めること(建築当初は土塗りの厚さを大きくすることで軒から火が入り込むことを防いだ)となりますが、このたびの工事が耐震化を目的とするため「土居塗」という屋根下地にあたる土塗りの厚みを抑え軽量化を図る必要がありました。そのため、棧瓦は、土厚を薄くした「土居塗」の漆喰仕上げの上に棧木を取付け引掛け固定をする工法としました。このことは、新築時の土居塗による「塗葺」と棧木による「乾葺引掛棧」の併用型のものといえます。これにより屋根重量を軽減することができるとともに地震時の瓦の落下防止、さらには、耐火性能も犠牲にすることがない設計としました。



土居塗(塗葺)と棧木(乾葺引掛棧)の併用屋根